

社会科 第4学年 わたしたちの県 <山地の暮らし>

授業者 太田市立宝泉小学校 茂木 強

1,本時のねらい

VTRや地図・資料を見ることで桐生市に興味を持ち、織物業が盛んな桐生市について調べるための課題を立てる。

2,視聴覚機器の位置づけ

児童が学習のめあてである課題作りにより目的意識を持って意欲的な取組ができるように、以下の機器を活用し、効果的な利用方法を検討して授業に取り入れた。

VTRに学習内容(社会科 県の暮らし)に関連した地形、建物、施設など、現地(桐生)を撮影した。動く映像を見せることで、資料写真より現地にいるのに近い臨場感を得ることをねらった。また、今回の授業では導入ということで、必要な部分だけ枠に入れて、より学習を焦点化させるねらいもあった。さらにパソコンの編集ソフトを活用して映像を入れる順番、時間など効果的に見られるように検討し編集をおこなった。

次に、デジタルカメラの写真を補助的に使った。これは、次々に消えていってしまうVTRの映像を児童の意識に残すために掲示用として活用した。

VTRはプロジェクターを介して掲示した。より大きな画像で現地体験に近い感覚を得ることを目的とした。



3,授業の概要

本授業は、「おりもののさかんな桐生市を調べよう」を学習のめあてとしていた。そして、織物の盛んな桐生市の様子を映したVTRを視聴して気づいたことを発表し合い課題をつくる活動と、それぞれの児童が設定した課題を解決するための計画を立てる活動で展開されていた。

(1) 桐生市の様子を映したVTRの視聴

VTRを視聴した後、児童は気付いたことについて以下のような意見を発表した。

反物、焼き物がたくさんあった。

工場があった。屋根がつながっていた。

がたんがたんと言っていた。

糸とか布とかでできるものが多かった。

お店が並んでいた。

太田から電車で新桐生駅に行ける。

(2) ワークシートに記入した課題を発表

児童は様々な視点から調べたいことを考え、以下のような課題を設定し発表していた。



織物・反物の店を調べたい。

織物の作り方やその工夫を調べたい。

織物を織る機械を調べたい。

織物工場はいくつあるのか。

どうして織物が盛んになったのか。

つくった織物をどこに送るのか。

一日にできる着物の数はどのくらいか。

桐生市の特産物は何か。

桐生市の人々の生活を調べたい。